令和5年度　維持管理状況（5月1日～31日）

＜工場設置計器の測定結果＞

清掃工場名	焼却能力	炉番号	処分した一般廃棄物	ごみ焼却量	燃焼室ガス温度	集じん器入口ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度（煙突）（$O_2$12%換算）	冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんの除去
	t/日			t	℃	℃	ppm	
有　明	400	1号炉	可	定期点検補修				ボイラ設備の除じんはボイラスートブロワ又はボイラ槌打装置により毎日実施する。ろ過式集じん器の除じんは空気式自動洗浄装置により毎日実施する。
		2号炉		2,352.17	1,003　～　1,199	172　～　176	8～33	
千　歳	600	1号炉		11,574.85	928　～　1,120	159　～　164	0～10	
墨　田	600	1号炉		13,100.76	969　～　1,198	163　～　170	0～1	
新江東	1,800	1号炉		14,625.13	869　～　1,147	173　～　177	0～8	
		2号炉		14,913.07	880　～　1,130	174　～　179	1～16	
		3号炉		16,320.94	890　～　1,147	172　～　176	0～6	
港	900	1号炉		7,855.46	1,071　～　1,307	165　～　167	1～59	
		2号炉		3,408.51	1,043　～　1,251	168　～　170	2～23	
		3号炉		5,562.19	1,069　～　1,288	164　～　168	1～36	
豊　島	400	1号炉		定期点検補修				
		2号炉		1,892.72	872　～　922	165　～　167	1～26	
渋　谷	200	1号炉		4,119.16	893　～　994	146　～　155	0～63＊①	
中　央	600	1号炉		定期点検補修				
		2号炉		3,068.05	959　～　1,136	154　～　163	3～30	
板　橋	600	1号炉	燃	6,921.39	989　～　1,222	158　～　162	0～21	
		2号炉		3,138.65	1,028　～　1,251	160　～　163	0～29	
多摩川	300	1号炉		定期点検補修				
		2号炉		3,243.27	886　～　988	155	0～4	
足　立	700	1号炉		2,808.39	926　～　1,024	171　～　173	0～4	
		2号炉		8,170.14	926　～　1,024	171　～　173	1～4	
品　川	600	1号炉		7,701.48	929　～　1,071	156　～　176	0～22	
		2号炉		7,623.72	916　～　1,056	173　～　176	0～18	
葛　飾	500	1号炉		定期点検補修				
		2号炉		6,613.41	973　～　1,150	149　～　178	2～15	
世田谷	300	1号炉		3,248.79	885　～　991	177　～　189	0～78	
		2号炉		965.42	931　～　1,026	176　～　188	0～56	
大田　新	600	1号炉		2,533.69	952　～　1,119	151　～　166	2～24	
		2号炉		8,988.93	947　～　1,119	151　～　167	2～27	
大田　第一	600	1号炉		4,823.86	840　～　955	165	5～67	
		2号炉		焼却炉停止中				
		3号炉		焼却炉停止中				
練　馬	500	1号炉	み	7,599.47	909　～　1,032	158　～　171	0～5	
		2号炉		374.94	929　～　985	160　～　172	0～5	
杉　並	600	1号炉		6,942.67	898　～　958	153　～　160	0～8	
		2号炉		6,871.15	896　～　977	151　～　157	0～14	
光が丘	300	1号炉		4,482.35	918　～　1,059	152　～　170	3～24	
		2号炉		4,474.51	920　～　1,055	153　～　170	4～21	
目　黒	600	1号炉		6,796.04	858　～　1,000	152　～　169	0～10	
		2号炉		6,867.90	864　～　978	152　～　168	1～15	

中防灰溶融施設、破砕ごみ処理施設は休止しています。

測定値が維持管理計画値を超過した理由（※）

＜逸脱理由＞

＊①　渋谷清掃工場　1号炉　令和5年5月3日(水)　7:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が一時間平均値で63ppmを記録した。

原因は、燃焼が不安定となり、一時的に燃焼空気が不足したことによる。

直ちに燃焼空気量の手動介入、助燃、再燃バーナの運転を図り、正常な燃焼状態に回復した。

令和5年度　維持管理状況（5月1日～31日）＜工場設置計器の測定結果＞より